

◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎適期収穫と正しい調製作業で良質な自給飼料を確保しよう。

<要 約>

- ◇ 乳用牛 ～牛群検定成績を活用した飼育管理の改善～
乳成分は個体の栄養状態を表しているため、数値の変化に十分注意し、必要に応じて給与飼料を増減する。
体細胞数が高い傾向にある牛は、乾乳期のディッピングによる乳房炎の予防と早期治療に努める。

- ◇ 肉用牛 ～肥育牛の飼育管理～
敷料の交換や飼槽の掃除、給水器の清掃などを定期的に行うとともに、暑熱時には牛舎の窓や出入口への遮光ネットの設置、送風機等によりストレスを軽減させる。
ビタミンA欠乏症や肝機能障害には特に注意し、予防と早期治療に努める。

- ◇ 豚 ～人工授精による効率的な肉豚の生産～
野生イノシシでの豚熱陽性が確認されていることから、関係者以外の衛生管理区域内への立入を禁止し、衛生管理区域へ立ち入った者等の記録や豚舎出入口での靴等の消毒を徹底する。
人工授精の活用により、産肉性及び斉一性に優れた肉豚が生産できるほか、疾病予防や生産コストの低減が見込まれる。

- ◇ 鶏 ～青森シャモロックの飼育管理～
関係者以外の衛生管理区域内への立入禁止、鶏舎出入口での靴等の消毒、野生動物の侵入防止等飼養衛生管理基準の遵守を徹底する。
鶏の肉質の向上を図るため、闘争を防ぎ飼育密度はマニュアルに沿って飼育する。

- ◇ 草地・飼料作物 ～トウモロコシサイレージ及び稲発酵粗飼料の調製～
トウモロコシをサイレージに調製する場合、黄熟期に収穫し、速やかかつ厳重に密封する。
稲を牧草収穫作業機でロールバールサイレージに調製する場合、土砂の混入を防ぐため、予乾・反転作業は1回とする。

- ◇ 作業中の熱中症対策
天気予報を確認し、日中の気温の高い時間帯を外して作業を行う。
こまめな休憩と水分・塩分補給を行い、立ちくらみやめまい等の熱中症の疑いを感じたら、作業を中止し、体調の回復に努める。

◇ ツキノワグマの被害防止対策

1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に務める。

農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整える。

◇ 農業保険

家畜共済など、自分の経営にあった保険に加入してリスクに備える。

報道機関用提出資料	
担当課 担当者	畜産課 経営支援グループ GM 三村 葉子
電話番号	直通 017-734-9496 内線 4814
報道監	農林水産部 次長 及川 正顕 内線 4966